

建材 マンズリー

No.682

8

AUGUST
2022

特集

木に寄り添い人を育てる 宮大工の世界

ここでちょっと一息 Coffee Break

デジタル田園都市国家構想が目指す Well-being

注目企業を訪ねる

株式会社EBILAB



温故知新

特集

木に寄り添い人を育てる 宮大工の世界

～木造建築 匠の技を未来につなぐ～

神社仏閣の建築や修復を手掛け、国宝や文化財の保護という重要な役割を担う宮大工。木の性質を読み解き、「継ぎ手」や「仕口」といった伝統的な技術を駆使した「木組み」の構法を受け継ぐ匠たちだ。

今号では法隆寺大改修を指揮し「伝説の宮大工」と呼ばれた故・西岡常一氏の唯一の内弟子で、法輪寺をはじめとする数々の寺社建築の棟梁を務め、「現代の名工」にも選ばれた宮大工棟梁の小川三夫氏にインタビュー。古来より磨かれてきた技術を現代につなぐ宮大工集団「鶴工舎」を創設した経緯と、多くの宮大工を育てる神髓に迫る。



小川 三夫氏

1947年栃木県生まれ。
高校卒業後、宮大工西岡常一氏の内弟子となる。法輪寺三重塔、薬師寺金堂、同西塔再建に西岡棟梁とともに活躍。1977年寺社建築専門の建設会社、鶴（いかるが）工舎を設立。全国の寺院の修理・改築・新築の設計施工などに当たる。著書に『木のいのち木のこころ』など。

撮影協力：法輪寺
斑鳩の北方、三井（みい）の里にある法輪寺は、聖徳太子の御子・山背大兄王創建とも伝えられ、飛鳥時代の仏像と1975年再建の飛鳥様式の三重塔で知られる。

木に寄り添い人を育てる宮大工の世界



はるか昔の建造物を未来へ紡ぐ
宮大工の仕事とは

奈良県生駒郡斑鳩町。現存する世界最古の木造建築とされる法隆寺をはじめ、数々の寺社仏閣を有するこの地に、小川氏が宮大工集団「鶴工舎」を発足させたのは1977年のこと。徒弟制度による寺社建築技法の伝承を根幹とし、寝食を共にする共同生活の中で多くの宮大工を輩出してきた。そしてその修業の道のりは、小川氏自身が歩んできた道でもあった。

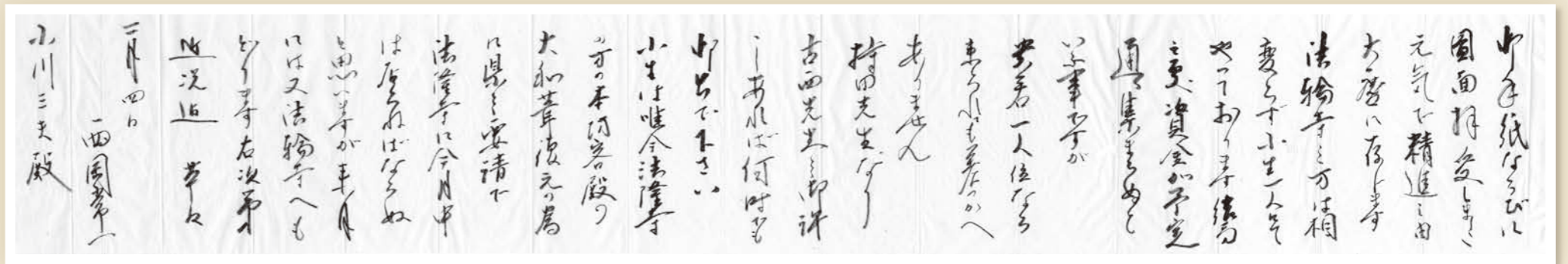
「技術や技法を言葉で伝えても、腹の底から理解することは不可能だし、それが本人の血肉になることはない。師匠の仕事を目で覚え、自らつかむしかないというのが私の考えです。例えば、ユネスコ世界文化遺産にも登録されている日光東照宮。江戸時代に行われた『寛永の大造替』と呼ばれる大工事は、着

教えてもらうことはなかったという。

「棟梁が仕事に打ち込む姿をただひたすら観察して、自分で考えて工夫し宮大工に必要なものを身に付けていきました。それでも、一度だけ棟梁が指導してくれた時がありました。あるとき、棟梁自ら鉋をかけてくれたんです。向こうが透けて見えるほど薄く、しかも均一な、それは見事な鉋屑でした。こういうものが削れるのは技術以前の問題で、まずは刃物が研げなければ話にならない。私はその鉋屑を窓ガラスに貼り付けて眺めながら、ひたすら道具を磨き、木を削りました」

弟子に入ってから5年目、代理棟梁として法輪寺三重塔を任せられた。

「任せられることに不安はありませんでした。棟梁がやれと言うのだからやるしかなかった。やれる方法を考え抜いただけです。唯一慌てたのは素屋根を外し始めた時。屋根が反り返って見えて、これはまずい！と肝を冷やしました。しかし結局は目の錯覚で、素屋根をすべて外し終えた時には空に向かって真っすぐに立つ三重塔の姿が現れ、胸をなで下ろしました」



1969年、西岡棟梁より法輪寺三重塔の工事が始まるので、小川氏を弟子として受け入れる内容が記された手紙

素直な心で目の前の仕事を学んでいく姿勢の大切さ

「鶴工舎」を設立したのは30歳の頃。理由の一つが、「食える宮大工にならない」と思ったからだという。西岡棟梁が弟子入りを反対したのは「食えない」というのも理由の一つだった。宮大工は寺社に属しており、その寺のお抱えのような存在。当然仕事は多くはない。しかし、仕事があれば宮大工の技術が

工からわずか1年半という早さで竣工しています。機械もない時代にどのようにして実現できたのか不思議でなりません。実際にできたのだからそれは職人たちの執念のなせる業なのでしょう。技術や技法より造り上げようという強い気持ちは何より必要だということが分かります」

師匠がただ一度だけくれた鉋屑を手本に修業を重ねる

小川氏自身が宮大工を志すきっかけとなったのが、高校の修学旅行で、法隆寺五重塔を見たことだった。1300年前に建てられたものだという説明を聞き、「自分もこういうものを造ってみたい」と思うようになったという。しかし、どうすればその道に進めるのか分からない。そこで高校卒業間近の頃に奈良県庁に足を運び、紹介された先で出会ったのが、代々法隆寺の宮大工棟梁の家

伝承される場もなくなってしまふ。

これほど素晴らしい技術を持つ宮大工を食えない仕事にしたままではいけないと考え、幅広い時代の寺社建築を手掛ける「鶴工舎」の設立に至った。西岡棟梁は小川氏の思いを聞き、後押ししてくれたという。

「鶴工舎」では、棟梁、大工頭を筆頭に、大工、引頭、長、連の階級があり、宿舎に泊まり込み生活を共にする。「入ったらまずは食事作りと掃除が担当です。そうした集団生活の中で思いやりや気遣いが育まれます。宮大工の仕事は大勢で何年にもわたり行う仕事。柱を運ぶときも重い方をすつと持つなど、相手を気遣うことが不可欠なのです」。

これまでに130余りの寺社仏閣の修復を手掛け、100名を超える弟子を育て上げてきた。現在もおよそ30名の若者たちが修業の日々を送る。ここでは「技術は言葉では教え



法輪寺三重塔の前で(上)。「西岡棟梁が任せてくれたので、よしやってみようと素直に取り組めたことを覚えています」(写真中は西岡棟梁と製図の様子)

系にあり、五重塔や金堂などの修復作業を指揮した伝説的な宮大工とうたわれる、西岡第一氏だった。「西岡棟梁にお会いして弟子入りを志願しましたが、断られてしまいました。理由の一つが、7年が長け過ぎていたから。しかし、それでも諦めきれなかったため、仏壇屋や図面書きの仕事をして修業を積みました。そしてその間も、西岡棟梁に手紙を書いては返事をもらい、関係をつなげていました」

斑鳩町にある法輪寺三重塔の再建が始まるため奈良へ来て、もよいという手紙が届き、弟子入りを果たしたのは、初めて西岡棟梁のもとを訪ねてから3年余りが過ぎた1969年。内弟子となった小川氏は、以降西岡家に住み込み、衣食住を共にする生活が始まった。とはいえ、西岡棟梁の弟子となった後も、直接的に宮大工の技術や技法、心構えなどを

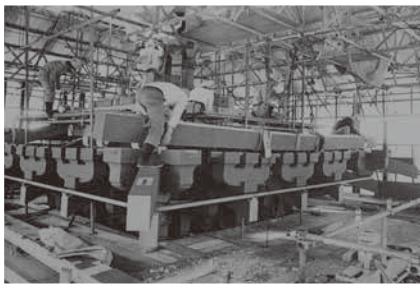


やり鉋かけ。伝統的な大工道具の一つであるやり鉋は、表面がざざ波模様仕上がる特性を持つ

ず、師匠の姿をひたすら見て体に沁み込ませる」という西岡棟梁から学んだやり方が脈々と受け継がれている。「私が最初に西岡棟梁を訪ねた時、18歳では遅過ぎる」と断られましたが、自分が弟子を取るようになってその意味が分かるようになってきた。修業で一番大切なのは物事にとらわれない素直な心です。年齢を重ね中途半端な情報や知識を持つっていると、物事を真つすぐには受け入れにくくなる。宮大工の仕事は教えられるものではなく、頭で考えずに体で知る必要があるのです。例えば薬師寺の三重塔を手掛けたとき。三層目の屋根を支える6.6mの隅木を柱筋より外側に5.2m出し、柱から内側に1.4m入れ屋根を支える。計算では答えが出ず、誰もやり方を知りません。自分で方法を考え、経験を積んで得た技がなければできなかったでしょう。どうしたらできるのかをことん考える力。それを育てるには、先輩や師匠と一緒に仕事



西岡棟梁の使っていた道具類。機械などなかった時代に職人を支えた道具は迫力が違う、と小川氏



上：薬師寺西塔 三層目組み立て作業。中：2008年頃、栃木本社作業場にて。下：2004年長久寺上棟式。全国に巣立った弟子の数は100名を超える

をする中で体で知ることが大切であり、そうして初めて職人として自分の内から湧き出るものが見えてくるんです。近ごろは効率を重視する風潮がありますが、1000年の大建築を手掛ける宮大工の世界では、要領の良さや小手先の技術は通用しません。不要な知識を持っていないか、なぜこんなことをしなければならぬのか、と思うようになり、素直な心で学ぶことが難しくなります」

本来は15歳ぐらいから始めるのが理想だが、今では大学を卒業してから「鶴工舎」の門を叩く若者も珍しくはなくなった。また、15歳で弟子入りした場合でも、20歳ぐらいで辞める人がいるそうだ。ひと昔前とは異なり、あらゆる情報が手軽に入手できる現代では、理想と現実の折り合いが付けにくくなっているのかもしれない。

「修業と聞くと、多くの人は「大変なこと」とイメージするようですが、本当は違う。修業をしていることを忘れるぐらい没頭できなければ、それは修業とはいえません。言い換えれば、没頭できていればつらいと感じる暇などないということ。そのためには、素直な心で受け入れて目の前の仕事を学んでいく他ないのです」

弟子は「育てる」のではなく「育つ」環境を作ってやればよい

「不器用の一心に勝る名人なし」これは、小川氏が大切にしている西岡棟梁の言葉だ。器用な者は上達も早い。しかし、慢心により脱落する場合も多々ある。一方で、不器用な者はなかなか上達しない。しかしコツをつかんだ瞬間に急激に成長する。不器用でも素直な気持ちで一心

に学び続ける。これこそが一流となるための正しい道といえるのだ。

「『鶴工舎』は多くの宮大工を育てている、とよく言われますが、少し違います。人を育てるといえるのは大変な仕事だし、私は育て方を勉強したことなどない。しかし、「育てる」と「育つ」は違う。私は育つための環境と機会を提供しているだけです。食事作りから始まり、毎日少しずつ仕事を任せていく。その積み重ねです。そして弟子たちが、「あんな風にできるようにになりたい」と思える姿を見せつける。そうして、やりたい欲求が膨らんだ時を見極めて、ポンと背中を押すように機会を与えてやる。任せるタイミングは早くても遅くてもダメ。そうすれば、弟子たちは自然と「育つ」のです」

1000年育った木を使う建物は1000年持たせるように造る

寺社仏閣の建築や修復には木が欠かせない。しかし昨今では、文化財に用いられる大きな木が手に入らなくなっている。400年かけて木を育てる取り組みを、国や大企業がリードしてほしいと小川氏は言う。

「どんなに弟子を育てても、私たち



の仕事は木がなければ何も始まらない。それほど大切な存在です。山に生えている木は、やはり生きています。われわれはそれを倒して使うわけですが、生きている木を建物として使えるよう、新たな命を吹き込む気持ちで木を扱ってきましょう。西岡棟梁は、1000年育った木を使う建物は、1000年持たせるように造れと言っていました。住宅も同じで、50年育った木を使うときには、たとえ人が50年住まなくても、同じ年月を持たせる気持ちで造れば、良い建物ができて資源も守られるのではないのでしょうか」

木ほど正直で面白く、温かく、良い素材はないと小川氏は言う。東に育った木は東に、西に育った木は西に使う。曲がった木はそれを生かせるところに置く。こうした木の癖を読み解き生かすのが宮大工の仕事だ。木と真摯に向き合い、これからもものづくりへの思いを次世代の宮大工たちに継承していく。



Coffee Break

Vol. 84

住宅業界の旬な話題をお届けします!

住生活ジャーナリスト 藤井 繁子

『月刊 HOUSING』編集長・リクルート住まい研究所主任研究員などを経てフリージャーナリストに。マンション購入・戸建て建築・リフォームと自邸で実践しながら、国内外で取材・コンサルティング活動を行う。



デジタル田園都市国家構想が目指すWell-being

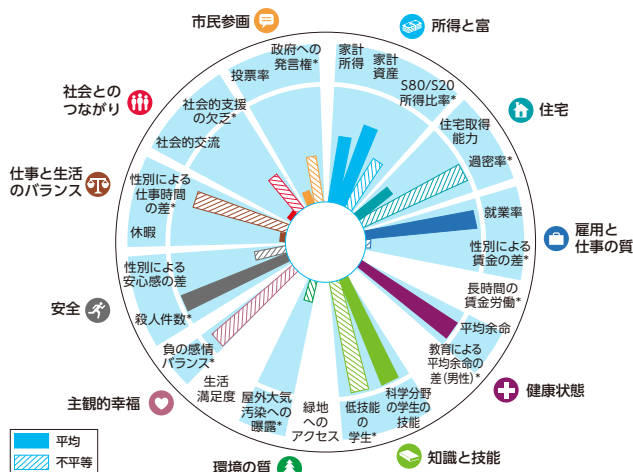
昨今、“ウエル・ビーイング (Well-being)” “スマート・ウエルネス” という言葉をよく聞くようになりました。日本は人口7,000万人の社会へ向かう時代、GDP (国内総生産) などの経済指標ではない価値指標が注目されています。その一つが、Well-being指標と呼ばれるものです。

Well-being、幸福感を測る

WHO (世界保健機関) では、Well-beingについて肉体的・精神的・社会的な「健康」や「満たされた状態」と定義。日本でも“幸福感” “心の豊かさ” など、健康よりも広義なものとして、その評価指標を含め研究が進められてきました。

国土交通白書でもOECD (経済協力開発機構) のWell-being指標「Better Life Index」を引用し、日本と37カ国の比較を紹介し課題を挙げていました。日本は「就業率」「平均余命」などは良い結果ですが、「過密率」「休暇」「負の感情・バランス」などはOECD平均よりも大きく劣っています。

「How's Life? 2020」日本のWell-being指標 (OECD)



各幸福度指標について、他OECDメンバー国と比べて相対的な日本の強み弱みを示している。線が長い項目ほど他国より優れていることを、線が短いほど劣っていることを示す (*が付くネガティブな項目は反転スコア)。不平等が現れた項目はストライプで表示され、データがない項目は白表示

岸田内閣が掲げる「新しい資本主義」の重要な柱として、Well-beingの向上を目指す「デジタル田園都市国家構想」(通称“デジ田”)の基本方針が、この6月に閣議決定されました。その評価にはスマートシティ・インスティテュート (SCI-Japan) が開発したWell-being指標を採用。これは市民視点の「暮らしやすさ」と「幸福感 (Well-being)」を数値化・可視化する指標で、データを無料でオープンにし、

自治体などに活用を促しています。

地方創生からスマートシティまで“デジ田”構想へ

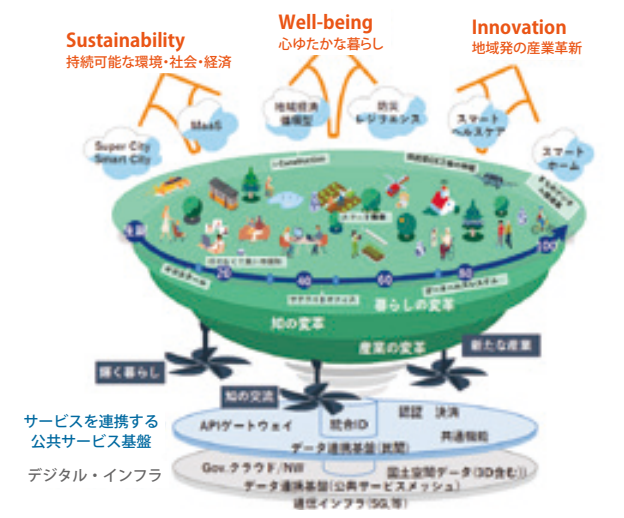
指標を開発したSCI-Japanが、フォーラム「デジタル田園都市国家構想によるスマートシティの本格実装」を開催。登壇した牧島デジタル大臣は、地方創生の施策をデジタル化で推進するデジ田構想について語るとともに、それを推進するための都市基盤データの整備、人材の確保・育成、地域課題を解決する事業などを支援する、デジタル田園都市国家構想推進交付金の活用もアピールしました。

デジタル田園都市国家構想実現会議*を紹介する 牧島かれんデジタル大臣 (SCI-Japan主催フォーラムにて)



* 会議長は岸田総理、副議長に若宮デジタル田園都市国家構想担当大臣、牧島デジタル大臣、松野内閣官房長官。閣僚や自治体長、民間若手経営者などが顔をそろえ、デジタル実装を通じた地方活性化を推進するための会議 (2021年11月~)

デジタル田園都市国家構想の取り組みイメージ図



デジ田では地方創生を実現すべく、地域特性や注力すべき方向性を探るツールとして、Well-being指標の活用を推し進めます。また以前からの施策である、スーパーシティ特区やスマートシティ事業に採択されている都市は、デジ田を先導する取り組みと位置付けており、各省庁の施策を包括する形でデジタル田園都市国家構想が動き出しています。

注目企業を訪ねる

付加価値創造に挑戦

来客予測的中率97%！ 老舗食堂の窮地を救ったデータ経営で あらゆる企業をサポートする



代表取締役

小田島 春樹 氏

本社 ● 三重県伊勢市
宇治今在家町13
創業 ● 2018年
資本金 ● 6,000万円
従業員 ● 15名
事業内容 ● 飲食店等に向けたクラウドサービスの開発・販売・サポート

株式会社 EBILAB

ここが注目ポイント

経験と勘に頼り
経営危機に瀕した老舗を
ITの力でV字回復

店舗経営に関わる
様々なデータを可視化し
活用する

無駄を省き生産性を高める
ソリューションの提供で
飲食店と小売店を活性化

「AIやIoTをフル活用し、小売店などの経営課題を解決するソリューションを提供する『EBILAB（エビラボ）』。老舗食堂で培った経営メソッドを生かした勘に頼らない経営を実現するシンクタンクとして注目を集めている。」

「伊勢神宮参道のおほらい町通りにのれんを掲げ、100年以上の歴史を持つ『えびや大食堂』は、数年前経営の危機にありました。メニュー構成やソフト体制、仕込みの量などあらゆる点で、勘と経験に頼っており、多くのロスが経営を圧迫していたのです。その店は妻の実家であり、私は事業を継ぐことを決意。まずは、地方のじり貧の食堂がV字回復する、というストー

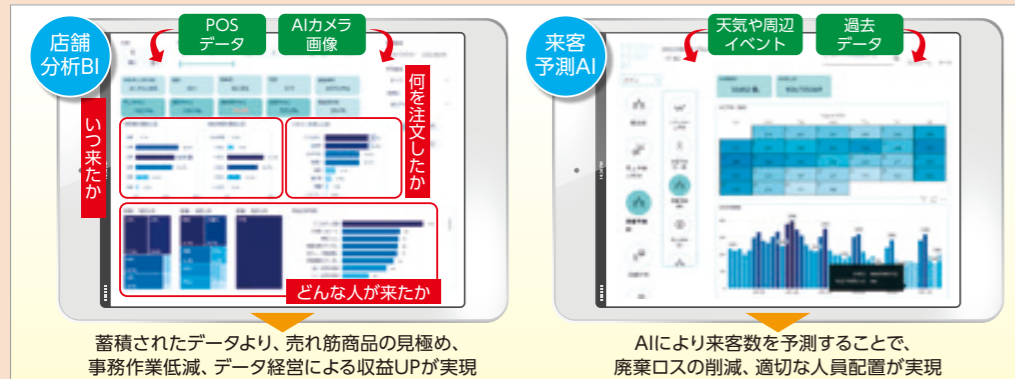
「特に、中小規模の小売店ではDX化が大きく遅れています。この点に着目し、『えびや』のシステム部門を分社化。多くの企業に当社のサービスを提供するため、2018年に『EBILAB』の設立に至りました」

データは活用して初めて 効率経営につながる

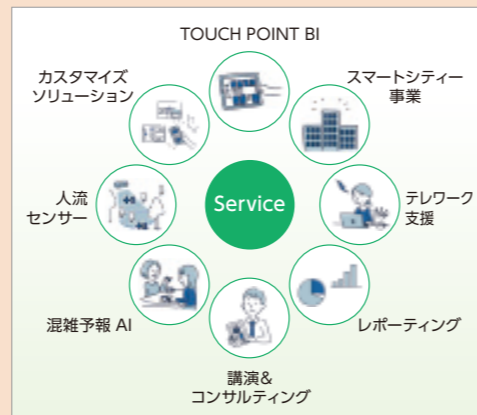
「『EBILAB』では、『えびや』での実体験に裏打ちされたノウハウを基に8つの事業を展開している。例えば『TOUCH POINT BI』。店舗分析や来客予測などで得られたビッグデータを解析し、必要な情報を可視化するツールだ。」

「店舗分析では店舗に設置されたカメラで入店率や性別・年齢といった属性を自動判定します。また、客層に応じた注文状況や、一緒に購入された商品などの情報まで分かり、店舗状況を正しく把握することができます。来客予測では、気象データや過去の売り上げ実績を基に翌日から最長1年先までの来客数と注文数を予測。的中率は約97%を誇ります。来客予測の活用により、『えびや大食堂』では、食品の廃棄ロス72・8%削減、全メニュー10分以内の提供実現、適切な人員配置による人件費17%削減などの効果が得られました。過去の実績の積み重ねであるデータに裏付けされた

飲食・小売店特化型店舗分析ツール「TOUCH POINT BI」



POSデータ分析、来客予測AIなど経営に必要な分析が可能



EBILABが展開する8つの事業領域



「えびや大食堂」の外観。店頭にはモニターが表示され、現在の混雑状況などが一目で分かる

リーを描き、改革に取り組みました」

「最初に行ったのがデザイナーを起用しての商品開発やブランディングで、土産物やオリジナル雑貨を取り扱う商店をオープン。売り上げは順調に伸びた。しかし、想定したような拡張性がないと感じたという。そこで、並行して行っていたデータを活用した経営の効率化に注力する。」

「学生時代にマーケティングや会計を学んだことから、データを扱うのは得意分野でした。POSやアンケート分析はもちろん、画像解析を活用した店舗への人流分析、AIを活用した来店客予測などのデータを集約し、可視化を図りました。その結果を商品開発や食堂の仕入れに反映することで店舗運営を抜本的に見直し、7年で客単価850円から2650円に大幅アップ。年間売り上げも1億円から5億円まで伸ばすことに成功しました」

以降、同社は「データ活用による経営改革を実現した老舗企業」として注目されるようになる。様々な業界の経営者と交流するうちに、小田島氏はこうしたデータの可視化や分析等の仕組みが、多くの企業にはなく、かつ求められていることに気付かされたという。

「得られたデータを分析すれば、ターゲットとする世代にハマるラインアップをそろえることができます。また来客者アンケートも活用できれば、各世代が好んで目にする媒体に適した広告宣伝をしていくことができます。データを取って終わりではなく、それを活用しなければ意味がない。そのため、コンサルティングも含めて事業を展開しています」

一方、データを取っても活用の仕方が分からないという経営者も多い。例えば、おほらい町通りで人の流れを解析すると、高齢者が多かったかつてとは違い、若者の比率が増えているという。しかし、土産物屋や飲食店では、変わらずに高齢者が好みそうなものばかりを置いている。これでは売り上げは伸びないと小田島氏は言う。

「『EBILAB』のサービスは、飲食店から小売業、そして複合施設まで100社を超える企業に導入されている。人口が減少し小売店の経営状況も厳しくなる日本では、無駄を省きIoTで効率化を図ることは生き残るための大きな武器となる。さらに時代の変化の潮流を読み取り、既存事業にこだわらず事業展開していくという。昔ながらにこだわらない柔軟な発想と対応力で、時代が求めるイノベーションを起こしていく。」

「林業イノベーション現場実装推進プログラム」のアップデート版を作成・公表 — 林野庁

林野庁は2019年12月に策定した、林業現場へ新技術導入を加速化するための「林業イノベーション現場実装推進プログラム」のアップデート版を7月に作成し、公表した。アップデートの主なポイントは以下の通り。

① 林業の将来像

林業分野のイノベーションにおいて、通信技術の進展が重要になることから、(1) 伐採・搬出、(2) 造林、(3) 新素材開発に加え、(4) 通信の将来像を追加した。

② 林業イノベーションの展開方向/各技術のロードマップ

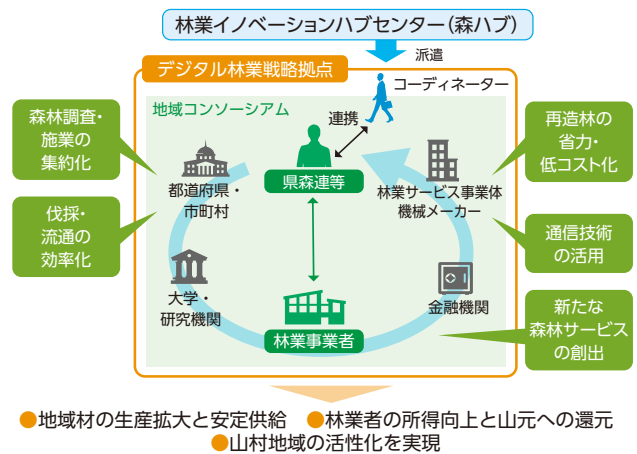
林業の課題を8分類35課題に整理し、課題に対応する異分野を含めた技術をリスト化し、技術熟度レベルを8段階で整理した。また、開発・実証・実用化・普及の4フェーズに分け、2025年までのタイムライン、現状や普及に向けた課題などを更新・整理した。

③ 技術実装の推進方策

本プログラムに掲げた技術の開発や普及を着実に進めるためのプラットフォームとして「森ハブ」*を位置付

けた。また、新技術の現場実装に向け、森ハブからのコーディネーター派遣などによる地域コンソーシアムの組成などの支援についても記載した。

*森ハブ：異分野の技術探索や産学官の様々な知見者により先進技術方策の検討などを行う「林業イノベーションハブセンター」。2021年度に設置され、本プログラムのアップデート(案)の検討を進めてきた



デザインと機能性を両立したタイ・バンコクの高級分譲マンション [HYDE Heritage Thonglor] が竣工 — 住友林業株式会社

住友林業株式会社がタイ・バンコク中心部で手掛ける高級分譲マンション「HYDE Heritage Thonglor」が完成し、7月27日に関係者やメディアを集めて竣工式を開催した。竣工式にはバンコク都知事や在タイ日本大使も参加。本物件はタイの現地大手企業(PF社・GA社*)と共同で開発を進めていたもので、2019年に着工した。

地上45階、地下2階建て、総戸数311戸。日本人も多く住むバンコク中心部の高級住宅地トンロー地区の大通り沿いに位置。駅直結のペデストリアンデッキから徒歩2分と交通の利便性も高い。さらにジムや地上40階に位置する360度ビューのスカイプールなど28の共用施設を有し、コンシェルジュサービスも提供している。

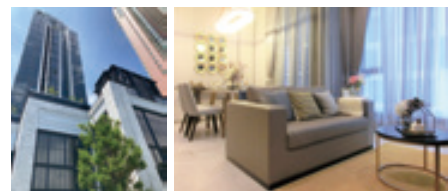
各居室は住友林業の設計提案により家具の配置や生活動線・収納などの機能性を考慮した間取りを実現。日本製を含む高級メーカーの建材を使用したほか、株式会社熊谷組が施工品質の向上に技術面で協力し、高級感あるデザインと機能的な空間を提供している。

間取りは1ベッドルーム(40㎡~)から3ベッドル

ム(111.3㎡~)とpenthouse(234㎡~)があり、単身世帯からファミリーまで、家族構成に合わせて幅広く選択できる。販売価格は4,900万円台から。日本語での問い合わせも可能だ。

* PF社：Property Perfect PCL
GA社：Grande Asset Hotels & Property PCL

■ 問い合わせ先 住友林業株式会社 海外住宅・不動産事業本部
アジア・オセアニア事業推進部 請川・中山
TEL：03-3214-3540 (平日9:15-17:30)
E-mail：thai-residence@sfc.co.jp



9月中旬に住友林業のタイ現地担当者と直接Q&Aができるオンラインセッションを予定しております。ご興味ございましたらお気軽にご参加ください。オンラインセッション申込先：
<https://forms.office.com/r/uR86kLQR1Z>



編集室より

■ 弊社ホームページにPDF版を掲載中です。

住友林業 建材マンスリー

検索



■ 送付先の変更、広告掲載・誌面に対するご意見などは以下までご連絡ください。

メールアドレス：kenzai-monthly@sfc.co.jp

FAX：03-3214-3263

住友林業株式会社 木材建材事業本部 業務企画部

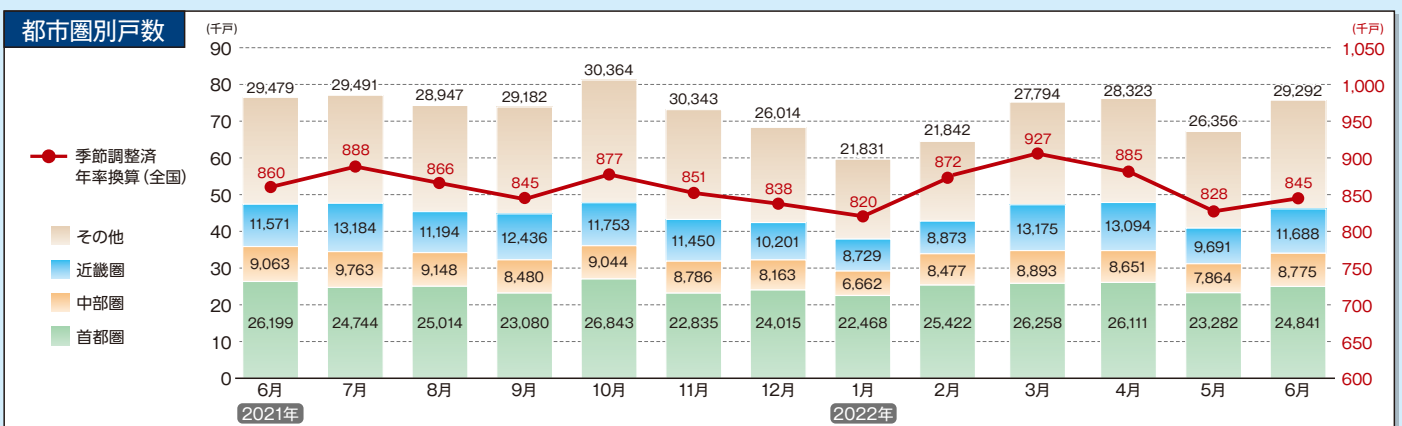
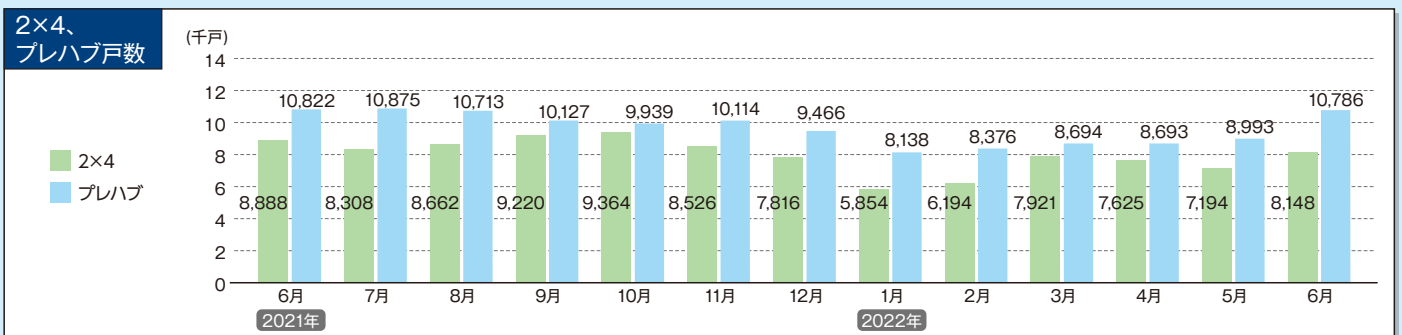
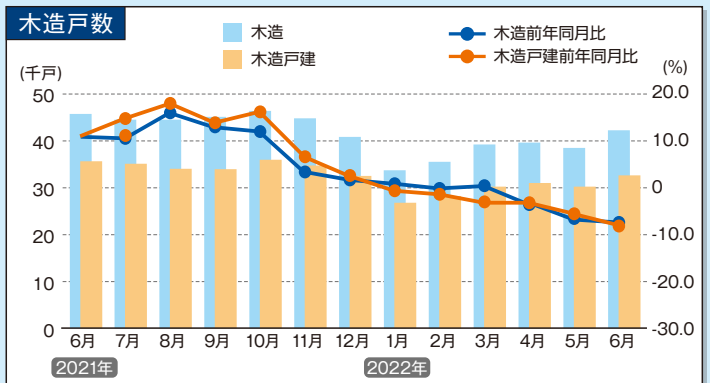
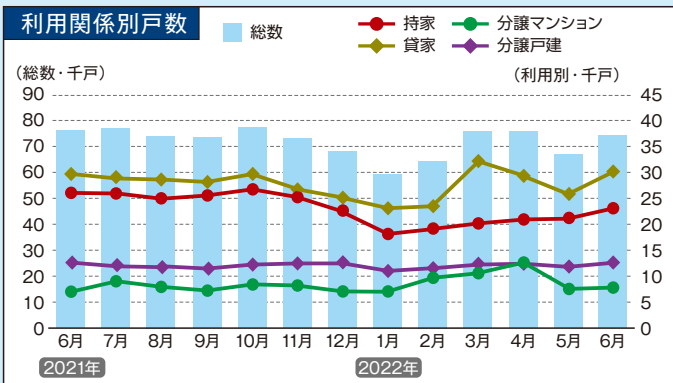
先達の教えに学ぶ温故知新シリーズ第一弾、小川三夫棟梁のお話はいかがでしたか。鰻工舎では、西岡棟梁の道具箱や五重塔の模型も拝見しました。模型ではあえて揺れることで地震から建物を守る「心柱」の存在を確認。スカイツリーにも使われている制振技術が、1300年前に木造で実現していたとは本当に驚きです。改めて木のポテンシャルと、その生かし方を知る宮大工の偉大さを痛感し、何よりサービス精神旺盛で気さくな小川棟梁の人柄に魅了された取材でした。(M)

表紙：住友林業(株) 住宅・建築事業本部 多摩支店 立川第一展示場

* 家具などのインテリア品は実際の展示と異なる場合があります

2022年6月の新設住宅着工戸数 単位：戸 ▲は減

		6月				5月	4月	3月	
		対前年同月比		対前々年同月比					
新設住宅計		74,596	▲ 1,716	▲ 2.2%	3,495	4.9%	67,193	76,179	76,120
建築主別	公共	866	486	127.9%	▲ 172	▲ 16.6%	684	1,002	1,553
	民間	73,730	▲ 2,202	▲ 2.9%	3,667	5.2%	66,509	75,177	74,567
利用関係別	持家	23,184	▲ 2,967	▲ 11.3%	▲ 466	▲ 2.0%	21,307	21,014	20,246
	貸家	30,285	483	1.6%	3,619	13.6%	25,942	29,444	32,305
	給与住宅	435	▲ 47	▲ 9.8%	▲ 161	▲ 27.0%	349	522	425
	分譲住宅	20,692	815	4.1%	503	2.5%	19,595	25,199	23,144
	うちマンション うち戸建	7,855 12,689	831 35	11.8% 0.3%	▲ 567 1,031	▲ 6.7% 8.8%	7,569 11,905	12,685 12,448	10,618 12,439
資金別	民間資金	68,202	▲ 1,610	▲ 2.3%	3,904	6.1%	61,680	70,279	69,502
	公的資金	6,394	▲ 106	▲ 1.6%	▲ 409	▲ 6.0%	5,513	5,900	6,618
	公営住宅	831	496	148.1%	▲ 179	▲ 17.7%	662	800	1,552
	住宅金融機構融資住宅	2,576	▲ 436	▲ 14.5%	▲ 750	▲ 22.5%	2,361	2,602	2,697
	都市再生機構建設住宅 その他住宅	0 2,987	0 ▲ 166	- ▲ 5.3%	0 520	- 21.1%	0 2,490	0 2,498	0 2,369
構造別	木造	42,380	▲ 3,370	▲ 7.4%	1,162	2.8%	38,427	39,625	39,225
	非木造	32,216	1,654	5.4%	2,333	7.8%	28,766	36,554	36,895
	鉄骨鉄筋コンクリート造	382	▲ 272	▲ 41.6%	38	11.0%	549	171	343
	鉄筋コンクリート造	19,718	2,081	11.8%	1,306	7.1%	18,175	26,002	26,892
	鉄骨造	12,016	▲ 171	▲ 1.4%	1,002	9.1%	9,927	10,297	9,596
	コンクリートブロック造 その他	42 58	0 16	0.0% 38.1%	▲ 2 ▲ 11	▲ 4.5% ▲ 15.9%	49 66	40 44	41 23



(出典：国土交通省ホームページ http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html)

the wall

天然木/壁・天井材

不燃タイプ

第1弾

2022.08 発売

詳細資料、現物サンプル
ご希望の方はこちら



red cedar レッドシダー